学校教育目標　「笑顔と拍手につつまれて　夢に挑戦　根岸の子」

ねぎし

横浜市立根岸小学校
学　校　だ　よ　り
２月号　家庭数
令和５年１月31日

ホームページ

言語化

副校長　小林　崇

少し前の話になりますが、昨年のFIFAワールドカップカタール大会のテレビ観戦で、眠れぬ日々を過ごしました。小学生の時に1982年のスペイン大会を目にしてから、４年に１度のサッカーのお祭りを長く楽しんできましたが、今大会はアルゼンチン代表の1986年以来の劇的な優勝や日本代表の躍進もあり、印象深い大会の一つとなりました。大会後、日本代表の森保一監督が試合中に書いているノートが話題となりました。そこには、日ごろの気付き、ミーティングでの共有事項、試合中に起こったことが書かれているそうですが、私は、その中で「不可能はない」や「喜び、誇り、幸せにつつまれる」などのポジティブな言葉が並んでいることを知り、興味をもち、言語化することの大切さについて一層考えるようになりました。

根岸小学校の職員玄関を入り左側を見ると、大きな一枚板に立派な書が掲げられています。お恥ずかしい話、何度も何度もその前を通過し、ずっと目の端に入れながらも、その文字と向き合うことがなかったのですが、ふと気になって足を止めてみると、そこには「宜勉力」「大正６年６月　野﨑貞利謹書」と書いてあります。「ぎべんりょく？と読むのかな。」「野﨑さんってどんな方…。」と大正時代のもの？という驚きも手伝って、インターネットで調べてみると次のような言葉にたどり着きました。

勤有功　戯無益　戒之哉　宜勉力

インターネットの情報によると、これは「三字経」というものだそうです。「三字経」は中国の伝統的な学習書で、子どもたちに漢字三文字で生き方の知恵や教えを説いたもの、日本でも寺子屋の教科書として広く使われてきた、とのことです。なるほど小学校に掲げられるにはぴったりです。私が要約すると…

努力して学べばうまくいく　遊んで怠ければうまくいかない　しっかりと勉強しなさい(小林訳)

といったところでしょうか。「宜勉力」とは、「しっかりと勉強しなさい」ということになります。いつの時代も変わらない当たり前の言葉ですが、この「三字経」は、大切な情報を小学校の子どもたちに簡潔に伝えようとしています。この立派な書も一つの言語化されたものと言えるでしょう。

DXと呼ばれるような近年の急激なIT化によって、情報量が増加し続け、言葉の波に溺れそうになる時があります。適切に言語化することで、シンプルでポジティブな伝え方ができ、言葉を受け取った側がすっきりとした気持ちになると思います。言葉に出合い、言葉に悩み、言葉に喜ぶ日々ですが、子どもたちにどのような言葉で伝えていったらいいのか、考えさせられています。